

高退教

岡山

第 158 号

2019 年 8 月

岡山県高校・障害児学校
退職教職員の会

〒703-8258

岡山市中区西川原255番地

岡山県教育会ビル3F 岡山高教組気付

TEL (086)272-2245

Fax (086)272-2242

目 次

会長挨拶 九条の改変は日本の教育問題 高退教会長 萱栄次 1

高退教 40 回定期総会

総会概要 岡山支部 山本 和弘 2

午後の学習会 憲法 26 条（教育権）改訂のねらいを探る

岡山支部 小林 軍治 4

高退教作品展 岡山支部 小川 澄雄 7

自然歴史探訪 岡山支部 美甘 晃 9

玉島平和美術展にとりくんで 備西支部 武田 芳紀 11

無謀な世界一人旅（第 6 回） 備南支部 正保 宏文 13

訃報 居郷毅さん

居郷毅さん 天空に旅立つ 岡山支部 佐藤 静夫 17

定期総会通信ハガキの紹介 19

編集後記・事務局だより 26

会長挨拶 九条の改変は日本の教育問題



岡山高退教会長 萱 栄次

今回の定期総会では、昨年と同じ内容での開会発言となってしまいました。

情勢が昨年よりも、さらに厳しさを増していると感じたからです。憲法九条を改変するという政治の動きです。

この問題は、九条（戦争放棄）ですので、当然、平和問題に関わる憲法問題です。しかし、私たち教職員経験者にとっては、日本の教育の大転換、戦後教育の全面否定としての側面を強く感じざるを得ません

私たちの先輩諸氏は、戦前、教え子を戦場に送った過去を再び繰り返さないために、憲法九条のもと「教え子を再び戦場に送るな」のもとに、教育実践をすすめて、現在にいたっています。

ところが、今の政権が主張している九条となれば、教師には「教え子を戦場に送る」教育が求められます。

残念ではありますが、現在のマスコミでは、「九条改変は教育問題」との視点での報道は全くありません。

私たちには、この視点での捉え方を世論化することが最も重要な課題ではないかと思えます。



6/30（日） 京山公民館にて

高退教第 40 回定期総会開かれる

岡山支部 山本和弘



第 40 回定期総会が、6 月 30 日(日)、京山公民館で開催されました。例年利用している岡山生涯学習センターが、予約の関係で借りられなかったため、初めて利用した会場でした。駐車場が少ないこと、作品展会場から距離があること、などの不便はありましたが、ゆったりと落ち着いた雰囲気のもと、議事を進めることができました。

総会の議事は、島田宏恵（岡山） 杭田利晃（美作）の両氏を議長に進められました。

冒頭挨拶にたった萱栄次会長は、「残念ですが、去年と同じ挨拶になります。安倍さんが、改憲企図を去年以上に強めています。改憲は、平和の問題でもありますが、教育問題でもあります。私たちは、かつて、教職に就くとき、憲法と教育基本法の遵守を誓約しました。47 年教育基本法は、第一次安倍内閣で改悪されましたが、この上憲法が改悪されて、九条二項が空文化され、集団的自衛権を行使する自衛隊が憲法に明記されることになれば、教師はその改悪憲法を遵守して教え子を戦場に送るために働かなければなりません。その意味で、憲法改悪は教育問題です。『教え子を戦場に送るな』という幅広い合意のもとに、昨年には幼小中高の退職教職員アピールが可能となりました。さらに運動を広げて、改憲をストップさせなければなりません」と強調されました。

議事では、美甘晃事務局次長が「2018 年度の活動経過・経過のまとめ」、河原和子事務局次長が「決算報告」を提案し、監査の田中博さんから「会計監査」の報告がありました。



これに対し、『故郷の美しい自然・水資源をまもるため美作市のメガソーラー

建設に反対する運動に高退教会員も加わって活動しています』とあるが、難しい問題だが、詳しいことが分かれば説明を。」などの質疑が寄せられ、事務局から、『会報第 155 号』の編集・取材を踏まえて、「自然に優しいクリーンエネルギーの開発・普及は大切だが、自然に優しいと言いながら元の山の形が残らないほど山肌を削り、環境への負荷が懸念されるソーラーパネルを大規模に据え付ける工事が、地元住民の不安をよそに、十分な合意のないまま推し進められている状況があり、ひきつづき注目していきたい」旨の発言がありました。

続いて、「2019 年度活動計画」を藤原斌事務局長が、「予算案」を、河原和子事務局次長がそれぞれ提案。これを受けて、質疑・討議がおこなわれました。

「改憲・反動化に反対する視点と共に、対米従属性を暴く視点、日米地位協定の問題点に迫る運動が重要ではないか」、



「岡山に公的な夜間中学を作る運動を具体的にどう支援していくか」、「岡山高教



組修学援助会、ゆきとどいた教育をもとめる全国署名の運動に、高退教の力をもっと発揮すべき」など、活発な発言がありました。

また、来年の結成 40 周年記念行事について、現時点での素案が紹介され、会員の皆さんから「40 周年に寄せて」「高退教と私」などの文章を積極的に寄稿していただきたいこと、また高退教

の歩みを偲ばせる写真などの提供して頂きたいこと、など事務局からの要望がありました。

最後に、新年度役員を提案の通り承認して、総会の議事は終了しました。役員については、事務局次長だった居郷毅さんが急逝されたこと、旭東支部幹事として、昨年度も総会終了後から実質協力をいただいていた岸本幹雄さんが、今年度は、正式に承認されこと、会計監査のうち 1 人、田中博さんから津島宣夫さんに交代。などの変化がありました。

総会午後の学習会 吉岡康祐弁護士を講師に

憲法 26 条（教育権）改訂のねらいを探る

岡山支部 小林 軍治



岡山高退教は、午前中の総会に続き、午後から学習会を開催した。講師は、吉岡康祐弁護士で、「憲法 26 条（教育権）改訂のねらい」と題して、約 1 時間話していただいた。

もっとも印象に残ったことを紹介する。

自民党は、改憲四項目のひとつに、「教育の無償化」をあげているが、この本当の

ねらいはなにか、一般的には「維新」を取り込むためであると言われているが、なぜ、多くの人権項目の中で、26 条を取り上げたのか考えなければならぬと語った。

ほんとうのねらいを知る上で重要なものとして、次の二つを上げた。

一つは、自民党の「日本国憲法改正草案」（2012 年 4 月 27 日）で、26 条に 3 項（資料 1）を新たに付け加えたことである。これは、「教育にたいして、国家の関与を強力にもとめる」ことを意味し、戦前に戻ることである。

二つ目は、2006 年の第一次安部内閣で「教育基本法を改悪したことである。この内閣は、「戦後レジームからの脱却」と「美しい国」（資料二）をめざして、「国が教育を管理指導し、国家の基本方針に従順に従う国民を作るために、一番重要な分野である」と考え、おこなった。

弁護士は、安部さんの改憲への思いは、根深く、執念をもってやっていることを、わたしたちは決して忘れてはならないと強調した。

戦後、日本の教育は、戦前の反省にたつて国の関与を排除し、教師の教育的自由を認めた「教育基本法」（1947 年 3 月）が出来たと。その前文を紹介した。

私は、司会をしながら「われらは、さきに、日本国憲法を確定し——。この理想の実現は、



根本において「教育の力にまつべきものである。」と心の中で誦じ、「生徒とともに」をモットーに理想に燃えていた、20代の若い頃を思い出し、こみ上げるものがあった。



そのほかで、気に入った弁護士の言葉を紹介する。

(一) 学生時代に印象に残った長谷川正安先生（名古屋大学）の「日本は二つの法体系がある。」（資料三）

(二) 弁護士法第一条の「社会正義の実現」は、「憲法理念の実現」と読むべきだ。

(三) 私は、自分自身を「憲法を愛する自由主義者であり続けたい」という信念のもとに、活動をしている。

最後に、2015年に岡山弁護士会会長に就任したときは、「憲法が安部首相によってずたずたにされている「憲法」（憲法くん）から憲法を守ってくれと命じられたような気持ちになった」と語り、その後、「おかやまいっぽん」の共同代表になり、市民と野党の共闘で参議院選勝利のために全力でがんばりたいとの決意を述べた。

（資料一）3. 国は、教育が国の未来を切り拓くで欠くことができないものであることに鑑み、教育環境の整備に努めなければならない。

（資料二）「美しい国」とは、個人主義よりも「全体主義」を美徳とし、「愛国心」が旺盛な国民が居住する国家で、かつ、「天皇を戴く中央集権的な国家」であると考えていると思います。これは、自民党の憲法改正草案前文を読めば明確です。

（資料三）日本には、二つの法体系がある。すなわち憲法を頂点とする国内法体系と、日米安保条約を頂点とする憲法9条とは矛盾する国内法体系（たとえば日米地位協定に基づく刑法の特別法である刑事特別法等）です。その二つの法体系は相矛盾しながら存在し、政治の枠組みができあがっていると主張するのです。

追記



参議院選挙の結果、改憲勢力（自民、公明、維新など）は、改憲発議に必要な三分の二を割った。にもかかわらず、安倍首相は、記者会見などで、「8回券論議については）少なくとも議論すべきだ」という国民の審判は下った」と述べ、今年度中の改憲発議に意欲をしめした。

わたしたちは、「全国九条の会」「岡山県九条の会」などと連携し、ひきつづき「安倍九条改憲 NO!3000 万人署名」を、地域、街頭でさらにすすめ、かならず安倍九条改憲を阻止しよう。このことが、4月23日に亡くなった、「まじめで責任感の強い演劇青年、居郷毅」さんの志を引き継ぐことにもなるだろう。

【総会で選出された2019年度役員】

会 長	萱 栄次		
副会長	小林 軍治	三上 雅弘 (岡山高教組委員長)	
事務局長	藤原 斌		
事務局次長	小川 澄雄	河原 和子	難波 欽子
	藤原 洋平	美甘 晃	山本 和弘
幹 事			
岡山支部	井上 俊清	衣笠 祥子	島田 宏恵
	和田 茂	田中 豊子	
偏南支部	綾野 保晴	犬飼 繁	
旭東支邨	岡田 憲朗	岸本 幹雄 (新)	
備西支部	清水 親義	西井 功	
備北支部	土井 彰	逸見 健治	
美作文郎	山本 美佐緒	草地 浩典	
会計監査	杭田 利晃	津島 宣夫 (新)	
顧 問	鴨川 恵美子	高垣 章二	
	中田 啓司	難波 娃子	

退職後の心豊かな私生活を示す作品展

民主的な運動とかかわる生活をも反映

～高退教第21回作品展開催される～

岡山支部 小川 澄雄



岡山高退教の第21回作品展が、6月25日（火）搬入、26日（水）から30日（日）までの日程で生涯学習センターを会場に開催されました。7月が、三年毎の参議院選挙の時期と重なるため、例年より1週間程度早い開催となりました。

今年は、30人が出品（第20回は24人）。以前に比べ、出品者や出品数は少なくなったものの、今回も絵画・写真・書・服飾・手芸・工芸等々内容豊かな作品群が展示されました。

第21回作品展で特筆すべきは、“平和運動・民主運動のなかで高退教会員が作った豆ポスターやチラシ”

（産賀さん）、“釣り上げた魚の魚拓”（岡田さん）が

出品されたことです。いずれも高退教の作品展には初めてのものです。これらは、高退教会員が、退職後もそれぞれ心豊かに私生活を送るとともに、社会とのつながりを切ら



さず、より良い社会をつくっていく活動を続けることを示すものです。「この出品は作品展に幅をもたせたな～」との声も聞こえてきました。



また、水間さんは、ここ数年大河ドラマをヒントに水彩画を出品されてきましたが、今回も「韋駄天」を寄せてくれました。この作品は、その後他の展覧会でも展示され、NHK ニュースでも取り上げられていました。

新たな傾向を示した作品展でしたが、豆ポスター・チラシはファイル1冊に綴じたままの展示になってしまい、ファイルのページを繰らない人には、ポスター・チラシの一枚々々が見えるようになっていませんでした。展示の仕方の工夫が求められるところです。



<出展作品一覧>

【写真】

犬飼 繁 八女投江烈士
 // 元七三一部隊兵士の悔恨
 // 謝罪と不戦兵士の誓い
 // 山羊の放牧

荒木 敏和 Ballroom Dancing
 // 髪飾

井上 俊清 旅三つ

赤座 匡 陽春
 // 共生
 // 躍動

中山 実典 きじ
 // 令和の夜明け
 // 孫

山本 和弘 早春の吉備路眺望
 // 庭のアマドコロ
 // ブログに載せた小鳥たち

岡田 憲朗 アコウ

板津 定邦 オコジョ
 // ライチョウ
 // コマクサ
 // エゾツツジ

三宅 茂子* 野鳥

藤原 美代 ハングリーの思いで
 // ガリバー現わる

【絵画】

中村 清子 ティワナク遺跡 (ポリビア)
 // ウユニ塩湖 (ポリビア)
 // シャウエン (モロッコ)

島田 宏恵 木曾 妻籠宿
 // 木曾 馬籠宿
 // 雪の妻籠宿

鈴木 操子* バラ
 // バラ

渡辺 暉夫* 裸婦

三宅 通明 ボタン
 // 那岐山

// 私の一本桜

美甘 晃 恩原湖の雲
 水間 正雄 韋駄天・金栗四三と加納
 治五郎の足跡を訪ねて
 // 出合いの旅・ノートルダ
 ム寺院パリ

武田 芳紀 帯江に特攻機が (組み絵)
 // エッシャー風のデザイン

【布絵】

難波 欽子 蘭 2点

【墨彩画】

板津伊智子* 円空さん
 // 海霧

【書】

小川 澄雄 道者萬物之奥

【魚拓】

岡田 憲朗 アコウ

【押し花】

藤原 美代 春

【チラシ】

産賀 俊治 平和・民主主義的諸行事
 の案内チラシ等

【手芸・服飾】

衣笠 祥子 手まり
 // パッチワーク タペスト
 リー

田中 豊子 布製手提げ袋
 河原 和子 パッチワークのタペスト
 リー
 // 手織りのパンツとベスト
 のアンサンブル

花田千春 刺し子の布巾

【工芸】

木村徳子 漆器
 土井 彰 小物掛 (柿とモロ松)

お名前の後に*がある方は協賛出品し
 てくださった方です。

第 50 回 自然 歴史 探訪

吉備の残影と「島おこし」を学ぶ小豆島を巡る旅

岡山支部 美甘 晃



5月26日(日)、小豆島を巡る記念すべき第50回の自然歴史探訪が催され、27名の会員と家族が参加しました。

総社駅、岡山駅と集合場所を経由してバスで新岡山港へ。新岡山港集合の会員を加えて、9時半出航の両備フェリーで、遠望が少し霞む瀬戸内海をゆったりと小豆島へと渡りました。

まずは土庄港からバス10分ほどで鹿島神社(旧賀嶋明神)へ。中田先生、そして現地の世話人毛利成一さんから入魂の解説。西大寺の「備前国神明帳」にこの神社が明記されていることから、古来小豆島は吉備の国の一部であったということがわかり、明治の廃藩置県で香川県に属することになったという意外な経緯を知りました。

その後、遠目に“エンジェルロード”を眺めながら、ギネスにも認定された10メートル足らずの世界一狭い海峡にかかる永代橋を通過して、キリスト教伝来記念碑のある小さなカトリックの聖堂へ。秀吉によるバテレン追放令による受難の歴史の一つとして、キリシタン大名高山右近がこの地に一時期潜伏したことを伝えているということでした。



少し早めの昼食は道の駅“小豆島ふるさと村”の手延べそうめん館で。炭水化物過多もものかは、4人で一つのそうめん桶をつつき、本場のもちもちの冷やしそうめんを文字通り一筋残さず堪能しました。



昼食後は、四国特有の平地から聳え立つといった感の山並みを見つつ、標高200メートルほどの小豆島町中山地区へ。ここには「中山の千枚田」「中山農村歌舞伎舞台」という二大見ものがあり、折しも瀬戸内国際芸術祭の期間中で、その展示物も途中目に入りま

す。若者や外国の観光客も多く集っていました。

千枚田は絶好の写真スポットと期待されましたが、場所的にベストとは言えず少し残念。かやぶき屋根の歌舞伎舞台とゆるい段々になった栈敷は、その歴史を十分に忍ばせる姿で、周りに立つ巨大な老木がそれを裏付けているようです。上演にもぜひ立ち会いたいものだと思います。探訪参加者も栈敷にたたずんでそれぞれ感傷にひたっている様子。

さらに旅程をすすめて、次は小豆島随一の景勝地寒霞溪へ。何度か訪れたことはあるものの、頂へは今回が初めてで、遠方に瀬戸の海を望む、上からの雄大な景色を楽しみました。



再び土庄港へ向かう途中、富丘八幡の栈敷を見学。ここは、江戸中期、氏子が祭りや流鏝馬を見るために設けた各家ごとの石造りの見物席ということで、現在も約 363 面余りが使われているそうです。小山の矩面に多数の石垣づくりの栈敷が並ぶさまは、今まで想像もしたことがないものでした。丁度、栈敷下の中学校が運動会の最中で、往時のような臨場感がいやでも高まります。生真面目な岡山とはまた少し違う地域文化を感じました。

津山藩陣屋跡を過ぎて、いよいよ帰路へ。土庄港では真っ白な何とも美しいフェリーが入港してきました。水戸岡鋭二氏デザイン“オリンピアドリーム号”ということで、嬉々として乗船。モダンなデザインのデッキ、船室、そしてキャラクターを楽しみながら新岡山港へと向かいます。

年 2 回実施してきた自然歴史探訪も今回で一旦休止、今後継続の方向で内容等を再検討するということになりました。5～6 回の参加でしたが、岡山の近くにこんなところやあんな歴史があったのかと、参加するごとに新しい発見をし、学ぶことができました。



特に、毎回深く明快に解説いただいた中田先生には本当に尊敬と感謝の念しかありません。先生のご健勝を願いながら、今後の高退教のとりくみも大いに期待したいものです。おだやかな午後の瀬戸の海を、ゆっくりすべるように進んでいく“オリンピアドリーム”号のデッキで、犬島、牛窓あたりを目に収めながらそんなことを強く思っていました。16 時半、まもなく新岡山港へ帰港し、それぞれの集合地へ解散となります。

玉島平和美術展にとりくんで

備西支部・玉島九条の会 武田芳紀



玉島九条の会では、この4月から、玉島協同病院の2階ラウンジをお借りして、「玉島平和美術展」を開催してきました。これは、原水爆禁止国民大行進が玉島の地に入ってくることへの歓迎・連帯の意味をこめ、企画しました。

そして、4月冒頭から2週間ごとに、作者を変えて、いろいろなジャンル、様式の作品を展示してきました。そして、平和大行進

が玉島に入ってくるまでの約4か月、8人の方の作品を展示することができました。

まず、初回は「平和への旅」と題して、私がスケッチと版画を出品させていただきました。その内容は、原水爆禁止世界大会や平和行進が開催されるきっかけともなった「3. 1ビキニデー」の被爆65年記念の今年の集会に参加し、その時の様子をスケッチした作品、さらに、その2日後に、山口市で開催された「イージス・アショア講演会」の様子、そして、一昨年の、ギリシャ・ツアー（オリンピック発祥の地で、仮説実験授業研究会の仲間と探訪）でスケッチした作品、最後に、2015年の秋、広島原爆ドームを訪ねて描いたスケッチを版画にしたものなど9点でした。また、第2回の展示は、高退教の仲間の水間正雄氏が水彩画を出品されました（テーマ：平和への想い）。



なお、全8回の展示が終了する間際、いよいよ平和行進が玉島の地にはいつてくる際、休憩・出発式の会場となる玉島支所の展示ホールをお借りすることができ、それまでの出品者の作品を一堂に会する形で展示して、行進の一行にも見てもらうことができました。

また、会場に「雑記帳」を用意し、鑑賞に来られた方に感想を書けていただきました。そこにはそれぞれの回の作品についての興味深いメッセージが寄せられており、全部を紹介したいところですが、紙面の関係もあり、その中から、私の展示作品を見られた方の感想のみ紹介させていただきますことにします。

＜玉島平和美術展＞の雑記帳より

●今の日本から平和がなくなってしまいそうでイヤです。政治家はアメリカの言いなりで、自衛隊の海外派遣、高額の武器購入などを進め、将来的には徴兵制も復活されそうな勢いです。国防にお金をかけるよりもまずは外交努力、予算は国民のために使ってもらいたいです。

(4月8日 I. T.)

●作品ひとつひとつに込められた思いが感じられました。武田氏の行動と努力に感心します。写真と違った何かを感じながら、仕上げたことも感動です。これをキッカケに、私も一つ取組むことにします。(4月9日 N. M.)

●短期間に平和に関係する地域や集会に参加されていたことにまず驚きました。普段からたくさんの活動をされている武田先生なので、「まあ、いつの間に行ってこられたのだろう」とまず思いました。集会等に参加しながらスケッチをする・・・話の内容を聞きながら、スケッチすることで、一層、その時の記憶が頭に焼き付いているのでしょうか。瞬時に特徴をとらえるベースに平和への関心・想いがあることが伝わってきます。スケッチによって記録を残していく、写真とは違ったスピードであり、観る者に考えさせる時間を与えてくれる作品です。これからもぜひご活躍を！作品展、ありがとうございました。(4月11日 T. M.)

●協同病院の中にはじめて入りました。案内所で場所をおたずねし、2階に行き、すぐわかりました。窓の外は春らんまんのよいお天気で、一つ一つの作品をゆっくり見ることのできる環境で、作品と対話しながら、よい時間をすご

させていただきました。

戦争のない日本がこれからもずっと続きますように・・・祈り！

一人でも多くの方が、この平和美術展に足を運んで、それぞれに何かを感じて・・・願い！

写真では伝えられないものが手書きを通して、伝わってくるような・・・思い！

このような機会をいただき、感謝します。ありがとうございました。(4月16日 Nさん、Iさん)

●ビキニの水爆実験のことも、子供達に伝えられなくなって久しい。第五福竜丸のみクローズアップされて、高知県のたくさんの漁船で被爆した乗組員の方が自分の身に何が起こったのかも知らされずに亡くなっていることも知らされていない。「イージスアショア」の問題も、現地との温度差がある。オリンピックの本当の目的も忘れられ、利益誘導や都合の悪いことを隠すことに利用されるのは悲しい！先生のスケッチはやさしい線で描かれていながら、今の日本のさまざまな問題を力強く訴えられていて、心に迫るものがあります。(4月17日 Y. M.)

●玉島市民交流センターで開かれていた「清興会展」で、先生のお名前を拝見し、こちらにも来させていただきました。今から30数年前に玉島商業高校で「社会」を教えてもらった元生徒です。その後もずっと現役で活躍されていること、誇りに思います。平和な時代だからこそ、大切なことを語り継いでいかなければならないのですね。また機会があれば、寄らせてください。(5月22日 I. R. <旧姓、T>)

連載

無謀な世界一人旅（第6回）

備南支部 正保 宏文

ゲルニカに会う

マドリードに来て、ゲルニカに会わずして帰るわけにはいかない。それは、ソフィア王妃芸術センターにあるのだが、もし、ゲルニカがプラド美術館にあったとしたら誰もソフィア王妃芸術センターにはいかないと思うくらい、とにかく出色の絵であった。ゲルニカの絵のそばには、常に二人の監視員がいた。今まで1枚の絵に二人も監視員がいる絵を見たことはなかった。絵の登場人物はわずか6人で、うち1人は赤ん坊、もう1人は兵士、他は女性と思われる。あと登場するのは、馬、牛、それに鳥である。ドイツによる空襲で焼け野原になったゲルニカ、悲惨な戦争を告発するために、ピカソは筆を執った。人間の愚かさに対し、馬と牛が怒りのいななきをあげる。



鳩と思われる鳥の上にナイフが描かれている。死を意味するのだろうか。女性たちは悲痛な雄叫びをあげている。死んだ兵士の右手の所に一本の花が描かれている。おそらく、ピカソは花を平和の象徴として描いたのだと思う。そして、早く平和な日々を取り戻し、二度と悲惨な戦争を繰り返してはならぬという自らのメッセージを込めたのだと思う。小生は、ゲルニカに午前、午後と2回会い、ピカソの平和への熱き思いを肌で感じた次第である。ピカソが亡くなって、40年目にマドリードに来た甲斐があった。日本のきな臭い政治を思うとき、国民の不断の努力で平和を希求していきたいと思う。21世紀を生きる我々にとって、武力による威嚇ではなく平和外交の大切さを説く日本国憲法第9条が、ますます輝きを増しているように思う。

「人を見たら泥棒と思え」とは悲しき教訓かな

スリに会って以来、自分の気持ちの中に人を警戒するような部分が強くなっていることに気づく。

「人を見たら泥棒と思え」というのは、いかにも悲しい教訓である。でも、世界を股にかけて旅する時、これが現実なのである。おそらく誰も好き好んで人のものを盗んで生活しようなんてやつはいないと思う。どうすることもできずやむなくやってしまったんだと思う。

小生に言わせれば、盗るより盗られた方がましだと思う。自分の良心に従って生きていくこと、他人の物を泥棒するなんて浅ましい心で、幸せになれるはずがないと思う。ただ、自分の気持ちの中に、他人を信ずることのできない部分が強くなったのは否めない。安心、安全な旅を続けるために、気持ちを引き締めながら、前に前に進んでいきたい。

また、お金を食べられた！

またまた、地下鉄の自販機に4.5ユーロ食べられてしまった。自販機は、ゆっくり落ち着いて対応せよということか。とにかくヨーロッパの自販機には穴が多く、使い慣れていないと戸惑ってしまう。コイン、紙幣、それにカード、しかも駅に日本のような地図による値段表はない。自販機の操作によって、料金を知り、お金を入れなければならないのだ。本当に厄介だ。切符を買う窓口があればよいのだが、無い時や、窓口が開いていない時もある。今朝、マドリードでは紳士に助けていただいた。感謝感謝でいっぱいである。

午後、パリのシャルル・ドゴール空港に着いてパリ市内に向かうバスに乗ろう



とした時も、切符の買い方がわからない。中国人とベトナム人の混血の若い女性が愛の手をさしのべてくれた。オペラ座前のバス停に着いて、ホテルまで何とかなると思っていたが、なかなかたどり着けず、2人の女性に尋ねて、やっとゴール。ホテルには、ニューヨークで依頼した痛風の薬が、妻から届いていた。早速、ホテルから自宅へ感謝の電話。久し

ぶりに聞く妻の声は、妙に明るかった。「父さん元気で留守がいい」のではと思った。

オペラ座の威厳に満ちた建物は、重量感もあり、ハイソサエティの社交場だとわかる。街行くパリジェンヌを見るとマドリードの女性と比べると、何故だかわからないが、どこかあか抜けて美しいような気がした。これは小生の偏見だろうか。

ルーブル美術館へ



今ホテルにて時間調整をしている。一人旅をしているとホテルの中では話し相手もおらず、することもないので、駄文にうつつを抜かしている。今まで60有余年生きてきて、これほど自由な時間を持ったことがあるだろうか？人間は何のために働いているのか。当然幸せになるためである。斉藤一人さんは、「幸せになる権利がある」のではなく、両親の愛の下、自分は生まれてきたのだから「幸せになる義務がある」というのだ。小生は、ある時は美術館をふらつき、あるときは骨董に手を出し、またあるときは、こうやって旅をしている。自分で言うのもおかしい話だが、ラッキーだと思う

時間調整が済んでルーブル美術館へ向かった。ルーブルへは昔一度来たことがあったが、当時は美術にまったく興味はなく、小便旅行で通過しただけであった。今回はしっかり見てやろうと意気込んだ。

ルーブル美術館は建物のイメージがつかめないほどでっかい。まず、作品ガイドを借りようとして、カウンターに行ったら、受付の男性が、ウインクをして無料で貸してくれた。小生には何のことかわからず最初は戸惑ったが、こちらもにっこり笑って厚意に甘えることにした。本来は、クレジットカードを使って、貸出券を購入する必要があったのだが、知らないことほど強いことはない。5ユーロ得をしてしまった。ミーハー的にミロのビーナスとモナリザとサモトラケのニケは、しっかりと拝見、特に、モナリザとサモトラケのニケは2回見た。美術館が、あまりにもでっかいので、何をどこから見ていいのか、全く分からず、午前中に館内を見てからやっとイメージがつかめた次第。今回来てよかったと思うの

は、スペインの画家ムリーリョに魅せられたことだ。彼の心は澄み切っているのか、彼が描くマリア像や女性像が極めて美しい。モナリザも美しいのかもしれないが、それ以上に美しいと思えるのだ。ダ・ヴィンチといえば、モナリザを含めて、今日5点見た。また、ラトゥールの作品も5点見た。中でも少女がローソクを持っている作品は愛らしく、ローソクの光が、彼女の指の隙間から漏れているのが超絶技法で感動的だ。足が痛くなるほど、館内を回りに回って展観した。お宝に次ぐお宝を見たので、心身ともに疲れ果ててしまった。心地よい疲れが全身を包んでいた。これを幸せと言わずになんといおうか……。



芸術に思う

人間は、何年も前から美を探求してきた。ルーブルは、美の集大成ともいうべきところである。美は、庶民の生活とはかけ離れて常に支配者のためにあった。しかし、それが徐々に庶民のものになっていく。支配階級にせよ、被支配階級にせよ、最終的には、求めるものは同じかもしれない。

ルーブルの天井を見上げると天井画や彫刻で埋め尽くされている。庶民の生活とは無縁である。でも、庶民の美術（芸術）もあっていいはずである。そう考えてみると、小生が収集した骨董は、庶民のためのものかもしれない。庶民も支配階級と同じように、立場に応じて、美を追求してしかるべきだと思う。小生の収集品などは、子どもだましにすぎないが、それでも結構楽しめる。骨董に関心のない妻は、邪魔だから捨てるとか、処分してとか、好き勝手なことをのたまうが、小生にとっては、人生を豊かにするツールなのであり、生きてきたあかしでもあるが、一方、家庭不和の元凶でもある。ただ、ルーブルの作品と小生の持っているものとは月とスッポンで比較にならないのは言うまでもないが…。

(つづく)



【訃報】

高退教事務局次長で、会報編集者の1人でもあった居郷毅さんが、4月23日亡くなられました。長年、重篤な腎臓病を患われ、若い頃に腎移植、近年は日常的に透析を続けながら、高退教、非常勤講師、演劇活動、その他民主的・社会的活動に骨身を惜しまず

奮闘してこられました。

写真は、高退教岡山・旭東支部合同の交流会（2017年春）で、健康吹き矢を楽しむ居郷さん。まぶたを閉じれば、この人懐こい笑顔が今も蘇ります。どうか、安らかにおやすみ下さい。（編集部）

元同僚で、同窓でもある佐藤静夫さん（岡山支部）から追悼文を寄せていただきましたのでご紹介します。

居郷毅さん天空に旅立つ

岡山支部 佐藤静雄

今まで、こんなに筆が重い事はない。居郷さんの事を書かなくてはならない。4月末に突然我々の前から消えた。享年65歳。信じられない思いと悲しみでいっぱいである。藤原斌氏は、高退教の会報の当番であった居郷さんから4月19日に原稿をmailで受けている。20日の朝倒れ、23日息を引き取った。その日は、居郷さんの記した編集後記を載せた会報を発送する日、藤原さんたちの発送作業は、つらい作業であったとの事である。

私の連絡への返信で音楽家の尾崎ツトム氏は、思わず息を飲み込んだと。1986年のコンサート以来、お互いの公演で会っていたという。昨秋の赤旗祭りでも笑顔で声をかけてくれたとの事。同じ国語科で演劇部、組合でも関わりの深かった高見京子氏は、一歳しか違わないのに、私の事をお姉さんと呼んでくれたとの事、これから話したかったこともいっぱいあったのに残念で悔しくてしかたありません。

居郷さん、高校時代には医者になりたいと考えていたという。しかし、大学は文学部で学んだ。卒論は、魯迅であったと聞く。魯迅の医学から文学の道は、居郷さんの道とダブってしまう。1981年、琴浦高校で新採用になる。公開授業

で見た彼の授業はすでに何年も経験したような熟成された時間であった。その年のうちに結婚した。私は、儀式嫌いで、親族以外で参列した唯一の結婚式が彼の式である。そして、新婦さんも来ていただいて職場で祝賀宴もした。その後、こうした宴の経験はない。それほど職場で愛されていたことゆえである。彼には、どんな人にもうまく関われる才があった。相手に問題があろうにしてもである。そして、相手を傷つけることなくして、それでも信念を語る事ができる。その事は藤原氏によれば、彼の人柄は「敬愛」という言葉で表せるとの事である。

1986年に(劇団ひびき)に入団している。同じ年に出演し、その後十年のブランクを経て1997年以降精力的に活動している。観劇にそう積極的でない私にもいつも観劇パンフを送付してくれた。今の机上に最後の封がある。劇団では、代表を務めながら監督、俳優を続けた。教師であり若い折には組合の青年部長もつとめている。持病で終生通院の必要あれど、人からの頼み事は断る事がない。そして、自分の授業、仕事の妥協がない。ゆえ、試験問題つくるにしても朝までかかる事もあったという。

私は、今年の彼からの賀状をみて久しぶりに会って話したいと思っていた。しかし、永遠に機会を逸してしまった。私は、彼は教育の構図、システムに対し失望感が大きかったのではないかと。それでも教壇に立ち続けたのはどうしてかと聞いてみたかった。私は、勝手に想像する。私は、構図がなんであれ直接生徒たちと関わる事に意義を見出していたのではないかと。そうした、国語教師の自負と授業そのものに楽しみを持っていたのではないかと。それは、劇団の演劇という直接性と重なるような気がしている。授業も演劇も心に響くと信じていたと想像する。

三村茂氏によれば、彼が書いたインタビューの言葉があるとの事である。それには、「私の教育理念として、どの子も伸びる。人生において無駄な経験は何一つない。」そしてどのような生徒を育てたいですかの質問に対して、「豊かな感性と想像力(思いやり)を持つ生徒。周囲に流されず自分で考えて判断する生徒。よく見て、よく聞いて、よく考える生徒。」とある。

頑張り過ぎと居郷さんに言いたい。でも、頑張りに敬意を示したい。

2019年定期総会 返信ハガキの紹介

〈岡山支部〉

では？

青山 一郎

歳を重ね、何ごとにも意欲が無くなりました。自動車の運転はまだしています。

当日は先約があり失礼します。

安東 誠

議案に賛成し、みなさんのご健勝と一層の活躍をねがっています。

昨年10月の岡山赤旗まつりでは、出店に十数人の方々がわざわざ訪ねてくださいました。今年卒寿を迎える身として感激でした。

板津 定邦

77才を控え、肉体的にも精神的にもできるだけ外の世界に飛び出たく挑戦しています。ベースは園芸作業、憲法問題は欠かせません。趣味との調整で気持ちが逸ります。安倍政権の暴走には気分が悪くなります。まさにトランプのポチですね。

井上 俊清

6月は恒例のように北海道・東北地方へ長期のたびに…。歩けるうちにと、山や海岸のトレッキングなどを楽しんでいます。

植木 五郎

昨年は「長寿を祝う会」にご招待いただき有難うございました。その後も元気で「安倍9条改悪阻止、年金引き下げ違憲訴訟、医療介護を守る」など活動計画に示されている運動に微力ながら参加しています。今後ともよろしく願いいたします。

大西 淑江

年金法を改悪したときには「百年は大丈夫」と言っていたその舌も乾かぬ内に「年金だけでは限界」とはよく言えたものです。今の政治は高所得者の利益しか考えていないの

岡田 忍啓

久しく会っていない人、しばらく会っていない人、最近会ったけど話し足りていない人…できるだけ多くの人に会えたら（お会いできたら）いいなあーと思ったりする今日この頃です。

小川 澄雄

年金者組合の岡山北区支部の支部長、町内会長をしています。

6年前に入会した「岡山古文書を読む会」は楽しくて、月2回の例会は無欠席です。予習、復習も欠かせません。女筆はむずかしく、頭をかかえてしまいます。

金田 光代

数年前股関節の手術をしました。なのでパイプイスなどに座ることができません。とても痛いのです。というわけで出席できません。

衣笠 様子

孫たちの成長を見ると、忘れようとしている自分の年齢を思い知らされます。

健康で過ごせるのが何よりです。

小林 軍治

当面する三つの目標

①中国帰国者の要望を踏まえた、介護施設の建設に物心両面の協力を実現させたい。

②参議院選挙で、安倍改憲勢力の3分の2体制を打破し、憲法を生かす政治を実現したい。

③娘と孫の住む、ニューカレドニアの海で泳ぎたい。

その他広島カープ、明治大学、岡山南高校野球部・女子ソフトボール部がそれぞれの目

標を達成するよう応援したいなど、9月で喜寿を迎えるが、あれこれしたいことが多く、忙しい日々を過ごしている。

島田 宏恵

先日高教組女性部の会でミニ講演の機会をいただきました。仕事、介護にピリオドが打たれ、平穏な日々を過ごす中、久しぶりに心地よい緊張感を味わいました。月2～3回の幼児ボランティアは楽しく続けています。

鈴木 實

いよいよの時になりました。老骨ですが持ち場で踏んばります。不屈

曾田 康載

教育とは無縁の職種に就き、1ヶ月に14日ほど黙々と現場労働しています。思えば退職後14年間（高校現場に）非常勤、常勤で復職することは、幸か不幸か、ありませんでした。

武井 靖

御盛会をお祈りします。

田中 豊子

定期総会には今回は欠席します。議案にあるように結成40周年に向けてのとりくみに、微力ですが協力したいと思います。

徳方 宏治

夫、宏治は5/21日に肺癌の手術をし、その翌日脳梗塞を発症してしまいました。肺の方は順調に回復しておりますが、梗塞を起こした部位が言語にかかわる部分です。話すことも書くこともできますが、文字が読めません。今はリハビリをしています。（徳方 和子）

中村 清子

今年は塩野七生にはまっています。『ロー

マ人の物語』『海の都の物語』長いスパンで一国の興亡を眺めると、世界の見え方、日本の見え方が変わってきました。「平和」の持つ意味、「戦力」の意味も。次はイスラームの歴史も学びたいです。

難波 欽子

近くに住む二男とそのパートナーから「お母さんは自分の健康のことだけ守って下さい」と言われて数十年経っていますが、なかなか困難なことだと身にしみています。

皆さん共に声をかけあい、身体の手入れを充分にして、童心、童体、童顔でゆきましよう！

難波 一夫

お世話になります。相変わらず「ネットワーク」へ行っています。

西村 晴江

今年も昨年と同じく、高校と専門学校で非常勤講師として頑張っています。二度目の免許更新講習も受けます。先日、一日目の講習を岡山大学で済ませました。あと、四日…。今年度中に完了する予定です。

花田 千春

緑が目にしみます。

先日夫をおくり、総会当日に法事予定です。ぽっかりあいた穴は埋まりませんが…少しずつ…と思っています。よろしく願います。

追伸 介護中に作った刺し子布巾出品しました。

廣田 耕治

再任用教諭として元気に勤めています。今後とも、よろしく願います。

美甘 晃

非常勤講師、高退教の役員など日々忙しくしています。二人目の孫もこの春生まれました。

三宅 克幸

昨年7月の大雨の対策工事（借地の畑の排水工事など）や家の中の片付け、畑地の準備資材の片付けなどに追われています。

久し振りに総会参加しますのでよろしく！

追伸 3月に辺野古闘争の支援でグループ参加しました。

山口 京子

いつもお世話になります。歴史探訪にはよく参加させてもらい、楽しい時間を過ごさせていただいています。退職後、ずっと朗読を続け、最近は語りの会にも入会し、自分も周りの方々にも楽しんでもらおうと思っています。

山本 和弘

週一回、専門学校で留学生に日本語の授業。また「なんでも相談ネットワーク」、地域の年金者組合のお手伝い、孫の託児業務などで、「悠々自適」の夢は遠のくばかりです。

米山 伯治

先日の小豆島探訪お世話になりました。

今後ともよろしく願います。

和田 知恵子

母親と私の病院通いが一番多い日程となっています。学習は「国連子どもの権利委員会日本への勧告（世取山訳）」に興味をもって取り組んでいます。

〈備南支部〉

綾野 保晴

今年5月、高校のクラス同窓会がありました。なんと、出席率は50%、県外からも多数です。もう先は長くない！と、5年に1度が2年に1度になっています。

石川 昌宏

まだ倉商で非常勤講師をしています。

岩佐 仁志

会費は当日払います。今年も「求める会」署名 ガンバリましょう！

岡田 純爾

週2日（午後のみ）児島の准看護学校に勤めています。物忘れがひどくなり、身辺整理を始めなければと妻に迫られています。孫が近いうちに13人になります。残る人生を如何に生きるべきかが目下の私の課題です。

岡本 和子

八年前に骨折して車椅子生活になり、週三日はデイケアに、二日はヘルパーさんにお世話になり元気にすごしております。96才になります。ご盛会をお祈りします。

鴨川 恵美子

週2回のデイケアに相変わらず通っています。体調はぼちぼちです。趣味で一つだけ残っているピアノは8月の発表会に向けて毎日練習を欠かしません。曲目は、ソロ、ショパンの「ノクターン嬰ハ短調―戦場のピアニスト」。先生との連弾、ビゼーの「“アルルの女”よりメヌエット」です。

萱 栄次

足腰がやや弱ってきていますが、毎日ボラソニアで頑張っています。これがなにより

の健康への道と思っています。

小山 公子

歩くことへの自信がだんだんなくなってくるような気がします、とりあえず元気です。

正保 宏文

地域で高齢者のための“たんぼぼサロン”開催のため、残念ですが欠席します。

天国に旅立ってしまった居郷さん安らかに
お休みください。

武田 昭一

5月3日「憲法集会（東京）」に参加して来ました。「日本美術会」「9条美術の会」それぞれ旗が立ちます。野党共闘党首勢ぞろいで壮観でした。パレードのあとのビールも楽しみで…。

だけど、年寄りが多いなあ。

濱越 唯利

私は1940年生まれ、もうすぐ80才です。交通事故の多い今日、私は免許証の返納をすることにしました。不便な状態が続くと思いますが心と体は元気です。

平松 芳子

全ての議案に同意します。私こと老々介護で毎日を過ごしている状態で出席は残念ながらできませんのでよろしくお願い致します。

ご盛会をお祈りしています。

藤原 斌

相変わらず、専門学校講師、源氏物語の講座（3会場）の講師、他いろいろと忙しくしています。昨年玉野の図書館に頼まれて、万葉集の講座の講師をしました。今年も同じ万葉集の講座を7月から9回ということで引

き受けてしまいました。初回に向けて悪戦苦闘しています。

三宅 ちはる

4月より仕事のない生活を楽しんでおります。ささやかな夢が実現しています♡

依田 清

18年度は修学援助募金額が前年度よりかなり多くなっていますが、対象者も増えたものと思われま。結構かと思われまが、生徒の感想文など匿名でも知らせてもらえるといいのではないのでしょうか。

作品展の出品者増への取り組みとして、参加賞など考えてはいかがでしょう。

〈旭東支部〉

荒木 敏和

総会直前の一定期間、医療機関で生活指導を受けます。作品展は出品します。

池上 善久雄

車の免許更新、今度は「認知機能検査」も入り大変でしたが、何とか更新できました。店もない、病院もない田舎では、車がたよりです。事故のないように気をつけたいと思っています。

井上 進夫

数少ない機会、楽しみです。

小野 信義

安部政権には困ったもんですね。それでも投票する人がいるのですからな困ったもんです。国民の啓蒙が必要です。頑張りましょう。

金光 勉

昨年10月には高退教から長寿祝いの席（旭東支部）を設けていただきありがとうございます

ざいました。現在（一寸先は闇とか）5月下旬ごろから脊椎管狭窄症に罹り少し弱っています。

40回定期総会の御盛会をお祈りします。

岸本 幹雄

再任用フルタイム5年目。東岡工に勤務している。両親の介護と土日は農作業（ぶどう栽培）をしている。先日（6/15）65才の誕生日を迎えて、いよいよ年金が満額もらえるが、70才まで非常勤をできたら…

鈴木 三重子

いつもお世話になります。御盛会をお祈りします。

-

高垣 章二

年寄りの人の交通事故が報道されるたびに、身につまされる思いがします。一カ月余りのちに、車を手放すことに決めたものの、それまで事故なしで運転できるのか？ また免許返上した後の交通手段は？ と悩む83才。

三宅 通明

議案に全面的に賛成です。

山本 明郎

認知症気味で…。皆様のご健勝を祈りつつ。

〈備西支部〉

井上 了

非常勤講師で週4日、休みは畑で野菜づくり、そんな日々を送っています。

ご盛会を祈ります。

岡本 チェ

退職して10年。専業主婦らしきことを10年やりましたが、もう十分、という気分です。家事は家族みんなで分担しなくてはいけません。

んね。

木村 信行

毎朝、軽い運動を三十分ほどしながら、何とか体力を保っています。

塩飽 岳人

今年は毛虫が非常に多く、庭木が骨状態になりました。

盛会をお祈りします。

塩飽 英明

毎日リハビリをしたり、パソコンをしたりと頑張っています。

清水 親義

軽い気持ちで、近くの病院へ行ったら大きい病院へと救急車に乗せられそのまま長期入院。ところが、どこも悪い感じはせず、検査、検査、検査。いまだによく分からず、退院後も検査で病院に通っています。

滝澤 紀子

今年は参加させていただこうと思いましたが、母の用事に付き合うことになり欠席となりました。

御盛会をお祈りします。

武田 芳紀

この4月から「玉島平和美術展」を実施しています。今年度の原水禁の平和行進が始まったのと合わせて、玉島に行進が入ってくるまで2週間ごとに違う作者が〈平和・憲法9条、戦争のない日本〉を共通テーマとして、絵画、書、写真などを展示しています。（ちなみに私は初回の4月5日から絵画を出品）場所は、玉島協同病院の2階ラウンジです。玉島に来られる便があれば（いや、なくとも！）ぜひお立ち寄りください。

-

西 功

元気に合唱、演劇鑑賞、ボランティアなど忙しくしております。

水間 正雄

いつもうっかりしていて申し訳ありません。提出が遅れてしまいました。懇親会は他の行事があつて残念です。皆様によろしく。

三宅 幸良

無職で、のんびりとやっていますし、これからも、と思っています。

〈備北支部〉

相木 トシ子

いつもありがとうございます。元気になっています。

生田 孝仁

歩行困難ですみません。

大久保 緑子

昨年は西日本豪雨のため、鉄道も道路も寸断され参加できませんでした。今年こそは何ごともなく30日を迎えられるように。初参加、ドキドキ、ワクワクです！。

加百 靖典

住所変更になりました。

〒719-1131

総社市中央6-30-30

土井 彰

総会当日、柔道の審国体予選（成年）が開催されますので欠席します。夜の部には必ず参加します。

難波 誠

今日も、やるべきことを確認し、自分の

日々を重ねています。

西村 毅

高退教では大変お世話になっています。議案書には賛成です。よろしくお願い致します。

福本 光子

この会に加えていただくことも、私の平和運動の一步と考えております。

何かとお世話下さる方には感謝しております。

逸見 健治

農家の仕事や親の介護で多忙な毎日をごしています！

逸見 良安

膵臓癌の手術を昨年9月19日に実施、身体がしんどい面がありますが、何とか生活しています。参加者の皆様によろしくお伝えください。

宮田 克己

今は農業法人のオペレーターとして日々過ごしています。

宮田 靖子

お世話になります。何をやるにも時間がかかるし、失敗もあるし、自分自身に腹立たしく思っている昨今です。あっ！つばめがきた～つばめはいいナ…

山本 浩

盛会を祈ります。当日は菩提寺（済渡寺）の行事（春祭）がありお手伝いの予定です。

小生、見た目も精神的にも頗る元気ですが、肉体的にはあちこちとガタが来ていて病院通いが絶えません。（外科が主です）

〈美作支部〉

赤座 匡

心身ともに錆が目立ってきましたが、永田町や霞が関に巣くうけしからん輩との闘いにあけてくれています。

もうしばらくは疲れたなあなどとは言わないようにしたいと思っています。

-

安東 玲子

気がつけば88才になってました。足、腰が痛いので畑仕事は出来なくなりましたが、日々の雑用とパソコンで時間潰しをしています。

-

杭田 利晃

加齢他の心身の減退を日々感じています。無理をしない程度に頑張っって長生きせねば…と思っているのですが…

草地 浩典

高教組組合員から高退教会員に移行する取り組みをもっと強化する必要があるのではないかと思われる。

高階 重和

日本国憲法を教え、前文と、主権在民。戦争放棄、基本的人権は、その生命であることを、大観させるべく尽力して参りました。今91才、最後のご奉公です。自分のできることをやっています。二度と戦場へ教え子を送るまい、と決意も固く。御盛会ご多幸を祈ります。

垂井 一新

4/15 籾まき、5/12 田植え、只今順調に生育中。今年は代かきをていねいにするこに心がけ、おかげで浮きわらも少なく田植機も快調、きれいに苗を植えてくれた。「現代農業」に学んだおかげです。これで増収へつながれば言うことなしなんだが、天候次第でもある。

友直 久徳

現在週2日(火・木)旭川荘、わかば、みどりに非常勤講師として勤務しています。健康に良い竹炭や、畑の野菜の栽培に使用したり原液を使用して墓地の草枯らし煮と有効に使用できる竹酢液を販売しています。

もしよろしかったらご購入下さい。竹炭100g200円、竹酢液20600円です。

中西 孝

毎日、あれこれ忙しく動いています。

-

則本 加壽恵

御盛会をお祈りいたします。

体の方も年相応にメンテナンスも必要となりましたが健康であることを感謝して過ごしています。

山本 宣子

喜寿を迎えましたが、元気で平和運動頑張っています。

夏の参院政権選で、安倍自公を終わりにしたいものです。みんなで力を合わせて頑張りましょう。

米山 加住女

梅雨のうっとうしい日がつづきます。いつもお世話になりましてありがとうございます。私も白寿をむかえ自由に動き幸せな毎日を送っています。皆様によろしくお傳へ下さい。

和田 誠也

傘寿を越えました。

健康維持の為、毎日近所のフィットネスクラブで水泳と水中歩行などしてすごすのを日課にしています。

他86名の方からの返信がありました。ありがとうございます。(6月25日現在)

編集後記

今号の会報編集に携わりながら、日を追って膨らみを増してくる一つの思いを、もてあましています。あまりにも突然に、遠くへ逝ってしまわれた居郷毅さん。訃報に接してから、はや4ヶ月になろうというのに、追悼の思いを言葉にまとめる心の余裕すら、未だに持てないでいるのです。

高退教「会報」は、ここ何年か、居郷さんと、備西支部幹事の清水親義さん、そして私の3人で、号ごとに順まわしで、編集を担当してきました。いみじくも、前号の編集担当が居郷さんで、苦心の編集作業の末に「編集後記」を執筆されたのが、いわば絶筆となりました。印刷発送の事務局会議を「体調不良」で欠席され、そのまま、帰らぬ人となられたのでした。

若い頃からの、重篤な病については、常々知悉しているつもりでいながら、様々な分野で、余りに律儀に、余りに自然体で、なくてはならない役割を120パーセント発揮して奮闘されているものだから、まったく予期も覚悟もできませんでした。地方選挙の最終版の時機、逝去のわずか数日前に、数刻をともにした時でさえ体調急転の兆しをうかがい知ることさえできませんでした。「一番思いがけなかったのは本人でしょう」と、奥様もおっしゃっておられた由。むべなるかな。

居郷さんが新人教師であった頃の職場の同僚で、同窓の先輩でもある佐藤静夫さんから追悼文を、寄せていただき、今号に掲載しました。

今号は、6月30日に開かれた高退教第40回定期総会と、午後の学習会、またこの日程に合わせて例年通り開催された高退教作品展の報告が、中心記事となります。総会出席はがきに添えられた会員諸氏の近況コメントも、例年のとおり掲載しています。また、記念すべき50回目となった自然歴史探訪、玉島平和美術展のとりくみ、「連載 無謀な世界一人旅」など、高退教らしい文化の香り高い記事が満載です。

「私と高退教」「高退教40周年に思う」(仮題)原稿募集

さて、高退教は、来年、創立40周年を迎えます。記念事業の一環として、記念誌の発行を計画中ですが、それに向けて「私と高退教」「高退教40周年に思う」(仮題)などの文章を会員の皆様から寄せていただき、記念誌を彩り豊かにできればと考えています。既に、30周年を前に、少なからぬ方々から寄せられた文章があり、それらも合わせて再録する形で、記念誌に掲載したいと思います。記念誌発行に先立って、「会報」で順次ご紹介することも考えていますので、取り急ぎ、高退教事務局または、最寄りの事務局員あてに、お寄せいただければ幸いです。また、郵送、fax、Eメールの場合は、下記担当者宛にお願いします。

【担当・連絡先】山本 和弘 〒709-1203 岡山市南区西紅陽台2-58-417
FAX 086-362-2688 Eメール 山本 和弘 <k52a07z@ya2.so-net.ne.jp>

